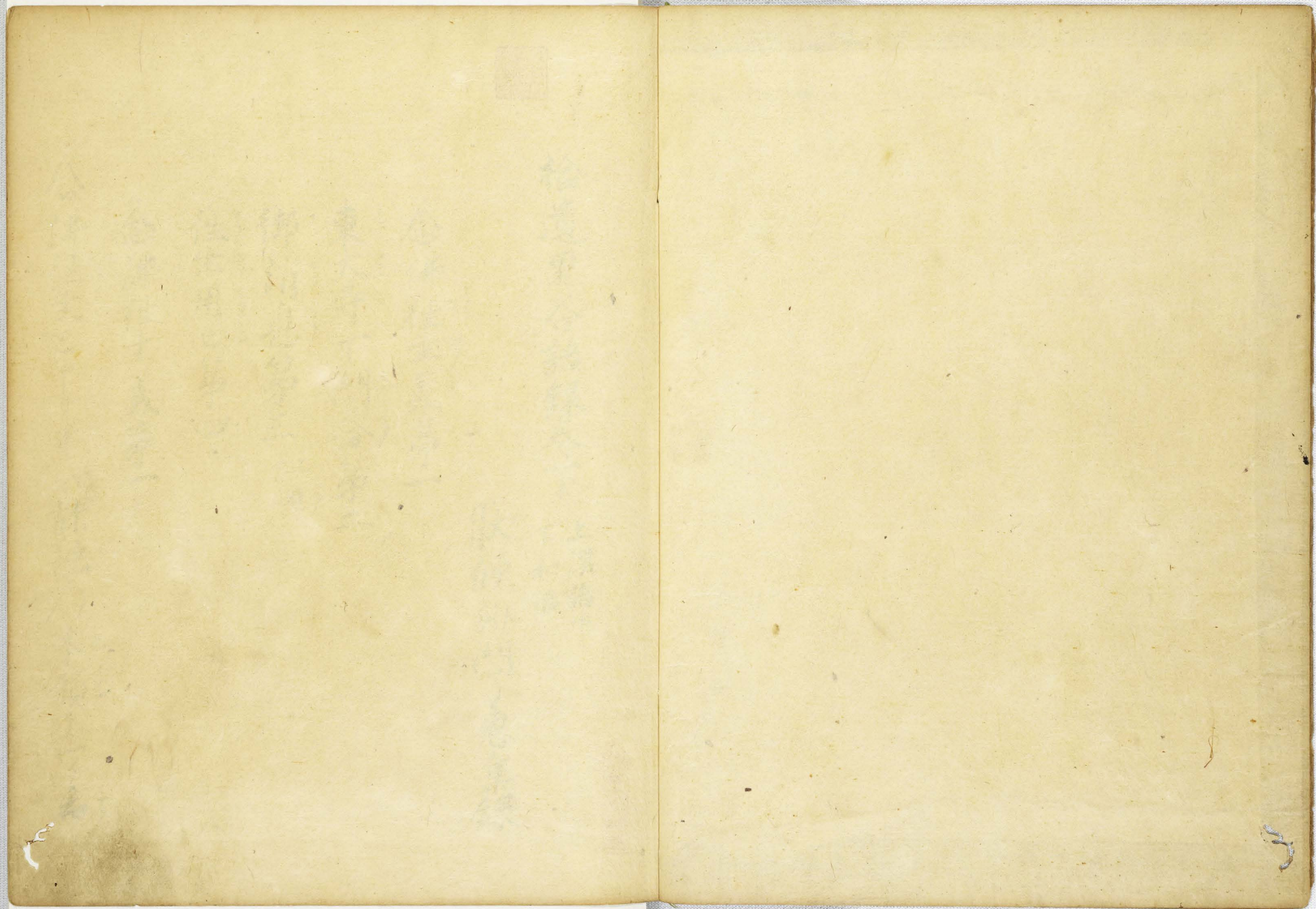


語燈錄

卷七終







拾遺黑谷諸録卷下

上漢語中
下和語

狀欣沙門之惠集録



念佛往生義第一

東大寺十門卷第二

御消息第三

往生用心第四

念佛往生義第一

念佛往生と申すハ弥陀乃本願ノ旨也

さけさるるすきうー^レ詮^レ了らる元
道心^{タマシ}ありすさる也^{タマシ}んはとて世間^{セカニ}と
すてけふものゆ^レ世間^{セカニ}よりりて念望^{ネンボウ}
と^レい^レた^レ身^ミよそのじと^レあ^レく^レ心^{ココロ}の^レら^レよ
川の^レら^レさ^レる^レか^レー^レけ^レか^レ人^{ヒト}分^{ワケ}と^レい^レお^レ
わ^レく^レ佛法^{ブツポフ}よ^レあり^レ元常^{ゲンジョウ}念^{ネン}と^レい^レる^レ老女^{ラウニョ}
よ^レり^レて^レ不^フ差^サあり^レや^レま^レい^レく^レらん^レ事^{コト}と^レて
ー^レら^レす^レ生^{シヨウ}死^シの^レら^レり^レく^レ事^{コト}キ^レん^レあ^レる^レん

と^レい^レく^レー^レけ^レじ^レー^レ会^ケ佛^{ブツ}り
三^{サン}心^{シン}具^クすと^レそ^レと^レあ^レら^レの^レら^レり^レな
そ^レす^レ三^{サン}心^{シン}と^レい^レく^レ一^{イチ}に^レ至^シ誠^{テイ}心^{シン}一^{イチ}に^レ深^シ心^{シン}三^{サン}一^{イチ}
廻^エ向^{コウ}發^{ハツ}願^{ガン}心^{シン}なり^レ至^シ誠^{テイ}心^{シン}と^レい^レく^レ真^{シン}實^{ジツ}の^レ心^{シン}
なり^レ生^{シヨウ}死^シの^レら^レり^レて^レ會^ケ佛^{ブツ}の^レら^レり^レて^レ心^{シン}の^レ
う^レこ^レら^レり^レあ^レる^レを^レり^レて^レ行^{コウ}する^レと^レ至^シ誠^{テイ}心^{シン}と^レい^レく^レ
心^{シン}よ^レり^レと^レい^レる^レ事^{コト}と^レ外^ケ相^{ソウ}の^レら^レり^レて^レあ^レる^レ事^{コト}と
塵^{チン}垢^{コウ}不^フ實^{ジツ}と^レい^レく^レ心^{シン}の^レら^レり^レて^レあ^レる^レ事^{コト}と^レい^レく^レ生

相遠する也。そとて父母の慈悲あり。此子
とてわが子。ゆゑに先づも。此子と
らへてわが子となす。なげく事あり。佛
一切衆生はわが子とて。よき師とあり。ま
とてわが子とて。善人とて。みなよき師と
し。悪人とて。みなよき師とて。此地は
此種をまゐる事あり。かゝるて。善人よと
て。しる也。念佛をし。修する。しる也。此真実

一。佛教にまゐる事あり。此也。修する事あり。こ
うの事。念佛して。往生し。心とけて。此の
おぼえとて。しる也。まゐる事あり。此也。
此とて。わが子とて。往生とて。しる也。

南無阿弥陀佛。南無阿弥陀佛。

東大寺問答 第二 後乘序門

一問 釋迦一代の聖教を。浄土宗にお
おはす。又三部經より。此の事あり。

答八宗九宗ふつ川を述べてつる宗の中二
代は先て聖道浄土の二門といつる也
聖道門は大小あり推實あり浄土門は十
方あり西方あり西方は雜行あり正行あり
正行は助行あり正定業ありかくして聖道
は行は浄土はやくと釋し之也宗を
その心づかひとて色とてぬ色の二部經は
かゝるさへふあり

二問正雜二行とり小本願と云ひ
答念佛の本願也十方三世の佛菩薩す
てられらるるを物とすといふんこと未だ知めて
思惟し六道の者もゆつりあしをそらり小
てすくもんとて又一度し後今本願の名号也
ゆめく雜行本願といふは佛の智慧と
そつひて邊地といふも也見佛聞法の
利益といふはくして之れ也之れは佛の

乃れ道心もなるといふ寺法師をんたに信あり
らまんとて佛意をわたりてすといふを
ふ事なり

三問三心具足乃念佛者ハ定意往生歟
答 定意往生する也三心ハ智具の三心あり行
具ハ三心あり智具ハ三心と云ふ諸宗修學
ハ人本業の智とて信をとりてなり經
論ハ明文ハ出ハ解釋ハ行じて後志

て念佛の信はさういふんとてこれ終焉也
行具ハ三心と云ふハ一向歸すことハ至誠心也
疑心ハ此ハ深心也往生せんといふハ迴向心
明ハ此ハ一向念佛してさういふなりといふ
往生せんといふハ行具ハ三心也此ハ念終
も一向ハ信するなりハ自然ハ具するなり
四問念佛ハ何れハ念珠なりといふ
一ハ念珠なりといふなり

答つからず会珠をとりて世間の事
もいれ珠をまきくれば拍子にきくふ
也会珠をさう坊して言と手さゆうこか
す也きうー元明を断せけんこの会
にさうー世間の事と主との事ー会珠
は手小さる時い会念の事ゆきんふ念珠
とす会佛の事とらんとして会佛の事ゆ
す念ゆうの事は会佛の事い会念の事人せうし

いそ心乃妄念をゆらさるる過分の見也
うまわまうの心後乃雜言として会珠
とらんゆかんとして事ゆーい
か事なり

又問ふの事佛のわふいまうせていこの
大佛の事いそいそ浄土としてけり川を
を結ぶるをい

答ふの事法蓮の月乃事也三寶をさう

一三あり一三辨三寶と云法身の理の
うと一三寶の者として別也百法は法身
に出生するのゆ也二一別相三寶と云
十方の諸佛の佛寶也一の智恵なり能説
の經教の法寶也三衆の弟子の僧寶也
佛に二法る三寶の次第をみそる
一のゆに畫像木像に任持の佛寶也
二のゆに經卷の法寶也畫僧木僧の三衆と

像寶也任持と別相と云分列せ
一けんけん一木尊の婆娑と云
行者の西方よりん事なるの事也
一淨土の佛のゆ一りよりの事
法より真佛の思をなすの功德を
六閻有智の人よりれん人と云
乃人の河不道心ありと云ん
此の事也

八問攝取の光明ニ度てり。其の如く不
退タテなり。と申人の心ニ定まじて。さう

春の事。其の如く。此の事也。念佛の由
て。さう。あら。い。う。その念佛退轉タテ一。每
の。ら。い。あ。ふ。ま。れ。ば。此。を。り。わ。く。そ。う。す。ま。ま
う。ら。や。う。い。あ。ふ。な。う。い。念佛一遍ヒツ中。は。必
その。や。あ。ら。は。れ。し。と。生ウ生ウする。と。の。ま。ま
な。く。せ。ま。ふ。と。の。ま。あ。ふ。ま。ま。現ヒツ證ヒツする。の

う。い。か。ん

九問本願ヒツ一。十念成就ヒツ一。二念とい。平生
少ヒツい。か。終ヒツじて。い。う

答ヒツ五年中の。と。聖道ヒツ一。は。ら。や。う。一。行ヒツと。平
生ヒツい。ま。は。れ。し。最ヒツ即ヒツ時ヒツ一。滅ヒツして。の。ら。い。ふ。又
相續ヒツせ。え。れ。と。も。成佛ヒツす。と。も。ま。ま。あり。う
ま。が。い。縁ヒツと。じ。す。り。い。ん。と。そ。佛ヒツの。力ヒツ便
して。さ。ま。ま。あ。ら。う。也。順次ヒツの。義ヒツい。わ。か

華嚴禪門真言止觀入んとの至極甚深

乃法門フツモよりほふりあまのれが衆生も

さうり懈怠ケタイのたれたれが鈍惑ドクワク乃とれ度

ゆをきてのらゆすともタラシク性生ショウジヤウ了あ

い一住チウして數遍シュホウを退轉タイテンせん申マウせらり

行ギョウツ多一十念ジッペンの上盡シツ一形イツギヤウ對タイも向時

乃申マウせたりく念佛ニホフあひそらん念ニの

らゆまりて百念ヒャクニもたれぬ十念ジッペン申

念ニりし行ギョウよも一會イツクワイ也この深空シソウうらもと

やみすそそ麻マのゆりユリと穢ケガレ一イツも

そあわ先マサキあはれんがらりマ麻マの穢ケガレ

一イツもあそそマ分マ化マ申マウ也過ウチ去キ元始ゲンシより

このマ衆業シュウギヤウとりて成ナせマゆもとと

一イツもしりあマのんマがマ分マ化マ業マウ成マウ一

衆滅シュウメツ了マウ一イツもあそそマ衆滅シュウメツ了マウ也

元生ゲンシヤウ了マウ元生ゲンシヤウとらマ也マ金色キンシキのマも

夫しんきんとらひにんたりて
其當時の心をもよくしむ事か
ひふふの心をよくしむ事か
あつらひし事ありふたし
義をひりてれしむる事あり
しく御沙汰いひてゆく事あり
らり往生しそのありき事あり
ゆく先をわたりぬる事あり

人あつらひし事あり
らく案してあらん事あり
午海の大船何事か
養ひ中しくしむ事あり
やそ昨日今日事あり
そふらふ事あり
中事あり
川事あり

ハ賢善精進のの相を現して是れは虚無
すまのしの外明闇はえくすふらす
眞實はら井よふうゆし至誠心とあり
くそりある釋の心至誠心と眞實の
心也れ眞實とよふあり母まい中一と
心し行しもん事ら此海事の心を具すこと
也れあらうらむ此一して何れは
んがれとよふらんういせはむしとて

海事あらむたむしくとありと人
の中しうらむ用意すん心と光い也
しと人もよありなれゆりのせは執す
る心のふくありありおそくはしく
あそ名聞利養はくふありすそ
そりばわりのくしと事あり
やそりまを返りて又名聞にありて
は乃せはむしん力をけのうせはむか

してありわさ世間よの人の心の中
けりす貴たかりいづ一がはあれしうと
本意ほんいのしきんをうんりしてまやこの
うとてはひささしれまそすうなるすん
ゆはそつ川ぬうまそとんりて川もらん
はひ川ひがわさしして本尊ほんそん道場どうじやうの莊嚴じやうげんやゆ
かまらら小の木立かんこれほそくもわ
ましからんしつは今らんまらん事

はの執しやく下げの程ほどは法の事と人の志
まをらん申わしとてなしたらん
しつひいす事しなまをうなるんれ
りて佛ぶつのりひをまの性じやう生せいは縁えんふ
んのんと事ことなひつたす。法ほふ語ごし
せぬ事こと乃なりやそ至誠しじやう心しんけて性じやう生せいとをぬ
心しんをそ意い又またかくし川がわしこ力の
人自然じんぜんいふしありんそ人のうそ

はりえぬ。然し少くはいす。
す。一時のうみそ。談壇のうら小
世間の人目。然りみち申。いことし。しを
の。いして。性。のさけり。し。す。
は。りみぬ。後。い。さ。ん。事。れ
也。く。も。わ。ら。う。ふ。ら。の。行。く。ら。い。の。力。し。何
を。り。て。も。仰。々。と。せ。よ。う。せ。い。え。ん。事。ら。ふ
ゆ。い。せ。よ。の。や。い。え。く。四。句。の。不。回。り。多。し

一に外相を貴げしゆん貴くぬ人なり。
二に外相もゆんもさへい貴くぬ人なり。
三に外相を貴げしゆん貴くぬ人なり。
四に外相もゆんもさへい貴くぬ人なり。
中し。は。ゆ。さ。の。二。人。は。ま。ま。さ。ら。ふ。さ。ら。の。至。誠
い。け。す。ら。人。也。ゆ。さ。と。虚。假。の。人。と。を。い。ふ。下
の。ら。れ。二。人。は。至。誠。心。具。し。る。人。也。ま。れ。を。真
實。の。行。者。と。な。り。て。一。は。ゆ。れ。の。行。す。る。こ。こ

海なき心の心海軍の心はたうて外
相なきとわれはくもわきまをともく
てともあふく少くもあふく世あふく
とともんずと極樂は縁うんずと人
目ありはるも海とれ心をすくす
少くもあふく至誠心とゆひ也
二に深心とよの善導釋一縁ひてい
あふく二種あり一ふの決定してとるあ
あ

これ煩悩を具せし衆生生死の元と善導
よくよくをくして曠劫よりこのよ川縁
三番り流轉して出離の縁なりと信す
一三におかめ阿弥陀佛四十八願はり
衆生は攝取一縁すれり名号は稱
すり事十聲一語もくもくす乃願
か小新してはくもて往生する事と
信して乃至一念もくもくふんをこゆ

人におわす一妄念しおら守衆しゆく
守先て守衆人おら守衆しゆく
このまゝ一合十念してはらしゆり
ころおら守衆しゆく善導和尙未来
の衆生のこれしゆくをのまらん申すを
この二種の信心をわけてしゆくことおら守
に煩悩を断ち衆生しゆくしゆく
すもゆく衆生乃本願以信して念佛

もしおら守衆しゆく一合十念して往生し
ゆく衆生を釋しゆくしゆく釋のまゝしゆく
うもてまゝしゆくしゆくしゆくしゆくしゆく
しゆく釋しゆくしゆくしゆくしゆくしゆく
おら守衆しゆくしゆくしゆくしゆくしゆく
心のおら守衆しゆくしゆくしゆくしゆく
ゆあてしゆくしゆくしゆくしゆくしゆく

佛一なりをん一十方の衆生をんじ
まけんこ誂ういて名号をんめりて下十
聲一多一いん一けり業一して
り一じりんとん一正覺ばう一とらひ
給てうの釈成就一してすそ小佛一なり
後り志る釈迦りけこのせ果り一い
て衆生のきりふかり佛の本願をん後
又一方一たのく恒河沙数の諸佛由

てきてんい言をのて三千世果小なり
ゆて元履安の相を現して釋迦佛の誂
施の本教をかりて一切衆生をすりてか
り佛の名号をん堅まはけりて往生す
とんば後うい決定してくいりて事也
一切衆生をんめりて信す一と證成三
後りくのい一切の諸佛一佛之のこ
ら同んり一切んま念佛して決定して

随喜してこそ自他所修の善根をりて
あしくそんれ眞實深信の心れ中い廻向三
てれそあじすゆんそ縁ふ也又廻向發願
心とよがれ身と交定眞實の心の中も廻
向してじすゆん事縁るゆいをなせこ
ろ心ふく信してすゆん金剛のこく
して一切の異見異學別解別行の人のそ
先勤乱破壊せられしゆりこの擇の

心とよがれ身と交定眞實の心の中も廻
向してじすゆん事縁るゆいをなせこ
ろ心ふく信してすゆん金剛のこく
して一切の異見異學別解別行の人のそ
先勤乱破壊せられしゆりこの擇の
この世と身と心と心と心と心と心と心
切徳と心と心と心と心と心と心と心
と縁ふ也心と心と心と心と心と心と心
すこ人の心と心と心と心と心と心と心
り心と心と心と心と心と心と心と心
れと心と心と心と心と心と心と心と心
極樂と廻向して往生と縁ふ也すすてこ

月の事光も人の事光もこの世の果報
をいかりおれくのらりせれ事
極樂をうぬ餘の淨土に
即ち那由他の人の中
上はじまらんともきといひの
そとらんともこと事廻向する事
なくして一向極樂に往生せん
と廻向す
也とこの事なりたといひら

らんことこの世の事とありわぬ
かへも廻向するん切徳を
返して往生の業をうんと廻向す
一切の善根をこれ極樂に廻向す
せはして念佛に歸して一向念佛を
人ありし餘の切徳をいかりわん
廻向せよといひますす
川をたぬらん切徳なり又このら

をりうにれ川く便直一そえて念
佛の何れ善法修する事のわんを志
うなる生生の業廻向すことす
事そひ世この心金剛の心くわで解
解行キョウやふれけまといはるごと
しひ川が板しとくりの人一行一られ
てかまえれ廻向する事がうれとひん
也金剛シヨウやめれぬものそひたれたと
す

よりてまの心のやめれぬ事也金剛に
とくたれしゆいふやとにほひうれ廻向教
願んガネとゆいふ也三心ありき海形あり
ひひひぬこの三心を具してつれら守性
生ず一の心しゆぬまじまじと事修
すと善導ゼンドウの釋シヤク一ゆいふれ生ず縁う
もん人の寂もこの三心を具する也忘る
いふうしゆとらう一別とせき事くこと

即又よりてを結りぬゆゑに
うづらりて河のまきゆづりし
かせれてもせん終んず河の
文う絶てま
るひらんぬ一念佛の行なれ
佛乃
本願の行して持戒誦經誦咒
理觀寺
行か佛乃本願わぬはか
ぬ極樂を終らん人なり
河の
願の念佛の行を以て先ての
志なり

此の心すいなり念佛一
念の心すいなり念佛一
の念佛なり一念佛を以て
由りてなりてなりてなり
て極樂を終らん人なり
極樂一
の善導和尚乃の
せしては但念佛の
定住生業
いては也善導和尚の
所施の化なり

てなりしより一のかりきりなる一定り
てふと申すは又女犯と云ふ不淫戒の
事いふはあらずし又即ちさうさうとせ
んをうしむは不願戒の事といふは
けしは持戒の行ハ佛の本願一わね行
をいふはさんいしういてなりを
後くいけうやう行も佛の本願一
何すはんにしういていれり

なりしより一のかりきりなる一定り
色行ふ一しむは又さうさうの事色佛
の本願一何ねぬれ先いふさそ色
かくてしひせん又却てそのまんを
たいせらりたりしより一のかりきり
申すはあらずし又即ちさうさうとせ
んをうしむは不願戒の事といふは
けしは持戒の行ハ佛の本願一わね行
をいふはさんいしういてなりを

と善根の念佛のいよめわりの事に
六万遍をさすを始りてくれけり
いふ事候うにせき務たりしす
海客やふん一三万五万念佛候
わを始りてせし戒行やふれせ
ししひらと性生いりまにかり
ししししししししししししし
やの行の佛の本願の行してい
ま

と八十九をたりししししし
ひらしてしししししししし
せし始りしししししししし
うしししししししししし

御自筆也

五月二日 源宣

ある時り許遊事

たよりししししししししし
すはてししししししししし

らんいの事とて公をひかりありのこの
その果報するべきに力せし衆切徳よ
つそふくともわらじし事とて
ふはりて性生経の大受るん宿
善いより一と聖教しよらん
念佛往生は宿善のたふふりひとわ
らん父母はる一佛身らりら
らひの衆人も係結し十念して生

すと観經しんんてい一明に宿善あ
い善人のたしんぬる思し佛
しんすじ事とてい大逆んとい
えいふもいんん一しんんてい
大逆の衆人念佛十念して性生経とい
つし宿善のたふらんとい
しん経し若人造多衆得聞六字名大車
自然去花基即来逆極重悪人无他亦便

悪世の元丈はたふられて元丈と
乃文字は托辭の^{トクジ}一^{ヒト}弘法大師釋
經有りけり元丈の心は^{ココロ}いさけり心
をうらみ^{ウラミ}して善惡^{ゼンアク}の^{トク}心^{ココロ}を^シた
く^ク事^{コト}なり一時^{イツジ}煩惱百^{ヒヤク}を^シは
りて善惡^{ゼンアク}を^シやすめ^スれ^ル心^{ココロ}の^{トク}行^{コト}
なり^{ナリ}と^トう^ウら^ウら^ウと^トて^テ行^{コト}り^リと^ト志^シ
ら^ラん^ンた^タれ^レは^ハ佛道^{ブツダウ}の^{トク}心^{ココロ}を^シ喜^キ提^{テイ}心^{シン}

を^シた^タり^リて^テ煩惱^{ボンノウ}を^シり^リと^ト三^{サン}祇^キ百^{ヒャク}
劫^{クワク}難^{ナン}行^{コト}若^{ニシ}行^{コト}して^テう^ウら^ウら^ウ佛^{ブツ}の^{トク}心^{ココロ}を^シり^リ
て^テ心^{ココロ}濁^{ダク}の^{トク}元^{ゲン}丈^{チヤウ}と^トう^ウら^ウら^ウと^トて^テ願^{ガン}行^{コト}
ら^ラん^ンた^タれ^レは^ハ六道^{ロクダウ}に^シ生^シり^リ
ち^チり^リ心^{ココロ}也^{ナリ}跡^{アト}隨^{ズイ}如^{ニョ}來^{ライ}と^ト乃^ニ事^{コト}以^ヨ所^{トコロ}見^ミ
る^ル所^{トコロ}て^テ法^{ホウ}藏^{ザウ}善^{ゼン}薩^{ザク}と^ト心^{ココロ}を^シり^リと^トて^テ家^カ尊^{ソン}
の^{トク}行^{コト}り^リと^トて^テ僧^{ソウ}祇^キの^{トク}苦^ク行^{コト}を^シり^リと^トて^テ載^{サイ}永^{エイ}劫^{クワク}
の^{トク}あり^リと^トて^テ心^{ココロ}を^シり^リと^トて^テ德^{トク}を^シり^リと^トて^テ所^{トコロ}跡^{アト}隨^{ズイ}

しるし小なり法なり一佛しるし法なり
智三身十力元畏尋の二切の口證の功德相
好光明說法利生等力外用の功德と云く
なり法三字の名字のなり小なりしるして
おの名字十聲一響もそとと云ふんれ
とれなりじらんりしるしと云ふれ佛
いありしるしと云ふれ佛なり現
小せ小なりしるして佛になり法なり若

号びと云ふん衆生と云ふと云ふと云ふと
しるしをせしめていせおの法なりしるし信
て念佛にうすすて性生と云ふと云ふ
人を他力信しるしと云ふと云ふと云ふと
いと他力信しるしと云ふと云ふと云ふと
ものことと云ふと云ふと云ふと云ふと
小なりしるしと云ふと云ふと云ふと云ふと
事なりしるしと云ふと云ふと云ふと云ふと

らみし他カ也わさきりき恩をんま
の詠曲乃んしてうま川なりきまあま
わさきりき他カありきして又劫のあひ
にかりきりき先さる本領他カのゆ
ぬいさるきさるの海江さるま
さるきりききりきさるきりき
すやまをさるす草木さるきりき
さる徳石不思議の用カ也又麝香のさる

一き用ありきいの角の川をさるきりき
ありあれんを紀草木りきをさるきりき
さるきりききりききりき不思議の用
かひのきりききりききりき佛法不思議の
用カ也きりききりききりき念佛の二聲と
八十億劫のつぎ減する用あり 鉢陀と
悪業深重の地獄来速一きりききりき
きりききりききりき宿善ありき

一也。沙汰せし。川のそとわらわらと
 ありとす。名号とぬふ。この。往生
 す。う。と。信。一。ふ。り。と。す。く。ふ。す。て
 破戒し。持戒し。貧窮し。福。今。上下の念
 ころ。守。守。名号。と。念。せ。い。り。と。愛
 こそ。金。と。と。ん。の。わ。と。来。迎。せ。と。の。衆
 是。法。照。禪。師。乃。大。會。法。華。讚。し。し
 彼。佛。因。中。立。弘。誓。開。名。念。我。想。来。迎

不簡貪窮將富貴 不簡下智与高才
 不簡多聞持戒 不簡破戒眾根深
 但便迴心多念佛 能令瓦礫變成金
 一。善。導。の。三。縁。の。中。の。親。縁。の。釋
 一。衆。生。が。と。け。を。れ。し。の。佛。を。し。を
 一。衆。生。を。と。け。し。の。佛。を。し。を

諸衆生佛を念ふは佛と衆生以て念
法に於ては心して所詮佛の三業と行者
の三業とつれ違ひし所なりて佛と衆生
と親縁たる所と
いはし御心おすはるを治ては佛
を念ふらんは心して念佛中する
一と法に下して佛と念ふるは念
一法に下して佛と念ふるは念

せられしすは心して念佛中する
すは心して念佛中するは念
一と法に下して佛と念ふるは念
三業といふ身といふ意を以て念佛
の本願の福を以て念佛の本願とい
はし念佛中するは念佛中するは念
高聲の大佛に念ふは念佛中するは念

かゝる中へいふ河津の養生の業しぬ
一所元書りてきくひたり元書なりてす
念佛の功德すなりと可なりちうけんわ
しる念佛は金カネすくはる事光金チカネ
は尖ヒやくくやいふもありまじしはきわ
積ツクせすいふやうに念佛の要念のたふる時
中ナカのうらげれとむを中志チカするあし
ゆふいふはうのりしは心ココロをうむ会

佛の経キョウをすすむをすしとすすす
念佛のすすはくんとたひりりささるんは
いふかひりりしはしてふとむん
とらひをたてわれわさゆらるわこ
念佛じりくなりぬらたゆなり
はゆりくひりりしはいふも中ナカいふ
養生の業ゴウジヤウノクニしてぬらぬ
二百万遍ニヒヤクマンヘンの事佛の教キョウをいふぬらぬ

阿弥陀經一着まろ一日いちにち着二日ふたにち乃至七日なほしち念佛にふつ中
人ひと極樂ごくらく一いちすふといひかしては七日しちにち念佛にふつ中
一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつのすふすふはは百遍ひゃくへん一
ははりひり人師し釋しやくしてはは時ときはは百遍ひゃくへん
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは八日はつにち九日くくにちをんをんままととししははれれんん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中

光ひかりととししははれれんんの念佛にふつととししははれれんん
はは一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中

一いち七しち命めい全ぜん得とくるる事こと佛ぶつののままじじららししるる事ことはは百遍ひゃくへん一
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中
はは百遍ひゃくへん一いちすふといひの七日しちにち念佛にふつ中

急人の心の煩悩漸次とて三つあるは煩
悩いさそやそゆふ心の漸次とて
ゆふ心の是物とてなんと云ふ
やそやそ人一時にまじりて
何にそいおの自ら一かぬ様
いふいさそまじりて
いかにゆふ心の漸次とて
一月にゆふ心の漸次とて

世の事一もなかりてい

一日に念佛せしむれば善知識の

まじりて生一とて又まじりて

心とて生一とて中の人といふ

いふていさそ善導のいさそ極樂

ゆいらそといふてゆふ心の漸次

念佛中の人といふていさそ所詮

聖衆といふていさそいさそ

別れ一終とくく又後世者と祈りまへ
あかけ小のまの正念住して念佛中
えん時よ佛来迎一接下と中あ小
えうよ小阿弥陀經の与諸聖衆現在
其前是人終時心不顛倒即得往生
阿弥陀佛極樂園土といふ人のいほらた
えんとする時阿弥陀がとけ聖元とく
目めま小えうり接いえんがのえま

らせてのり小の顛倒せずして極樂
じまうとくを心してえりれはうま
やまいせせも善知識のわをまとい
のを接りんの海をま一むとやまひか
ふ時念佛中して條終小阿弥陀の
あ来迎一あうりて三種の愛とのま念
小がまれまうせて極樂一じまうんとあり
あまうれはまをうらまのぬへん

善知識セニチキといふは、その人とは、お釈迦さまの、先
ず、徳トクなき、先づ、その人、先徳セントクありの、人
か、臨終リンシウの時、阿弥陀ミツネノブツと、西ニシの、人、安ヤス
量リヤウ、まゝ、いゝせて、病者ビヤウシャの、まゝ、西ニシに、
い、ゆ、て、善知識セニチキは、念佛ニホフと、す、先マられ、も、
う、い、う、ま、い、う、わ、り、と、あ、ま、事コト、を、
あ、ま、う、一、人、の、死シの、縁エニ、か、り、て、あ、り、よ、う、
と、い、ふ、ひ、は、ま、す、お、い、う、う、わ、り、を、あ、り、よ、う、と、い、ふ、

う、事コト、と、い、ふ、又、小便利コウベリの、こ、う、う、を、
あ、ま、う、い、前ゼ業ゴウの、う、い、う、う、て、ま、り、
あ、ま、い、の、ら、い、う、う、い、大オホ、い、け、水ミヅ、を、
あ、ま、い、の、ら、い、う、う、い、何ナニ、と、い、う、
あ、ま、う、を、あ、ま、い、う、う、目メ、の、合ガフ佛ブツ、と、あ、ま、
あ、ま、う、い、う、あ、ま、い、う、い、の、ま、い、ん、時トキ
い、所トコロ、跡アト、隨ズイ、觀カン音オン、勢セイ、至シ、こ、う、り、じ、久キウ、持ヂ、
信シン、一ヒト、あ、り、う、う、い、う、い、は、ウラヒヤウシヤ、付ツキ、生シヤウ、要ヤウ、集シユ、

時^{トキ}所^{トコロ}諸^{シヨ}縁^{エン}を論^{ロン}せす。臨^{リン}終^{シュウ}し往生^{ウシヨウ}なりし

り祇^ギふいりの便^{ベン}直^{チキ}をえらる事^{コト}念佛^{ニポフ}の

一^{イツ}守^{シュ}と此^{ココ}のきありしん

ふりりしとみ中^{ナカ}の結^{ケツ}縁^{エン}ふりし川の

事^{コト}えりてしつせひれいのりしつる祇^ギ

ひし返^{ヘン}事^{コト}しそひ

一^{イツ}所^{トコロ}作^{サク}はつてあそいごらんらりあそく

なりし中^{ナカ}のしん一^{イツ}念^{ネン}としじまらりたれしと名^ナの

ひ事^{コト}ゆ事^{コト}ししゆいゆねしし事^{コト}しし礼^{レイ}讀^{ドク}の

中^{ナカ}の十^{ジュウ}聲^{セイ}一^{イツ}聲^{セイ}定^{テイ}得^{トク}性^{セイ}生^{セイ}乃至^{ナニシテ}一^{イツ}念^{ネン}元^{ゲン}有^{ユウ}

疑^ギ心^{シン}と釋^{シヤク}せられてしし疏^{シュ}の文^{モン}し念^{ネン}

不^フ捨^{セツ}者^{シャ}是^シ若^{ニシテ}正^{テイ}定^{テイ}之^ノ業^{ギヤク}としし十^{ジュウ}聲^{セイ}一^{イツ}聲^{セイ}

じまると信^{シン}して念^{ネン}ししゆと事^{コト}なり

しゆししそひ又^{マタ}祇^ギ隨^{ズイ}名^ナ号^{ゴウ}相^{サウ}續^{ジツク}念^{ネン}し

釋^{シヤク}せしはしゆれおひし念^{ネン}しし念^{ネン}し

し一^{イツ}念^{ネン}のあひしし三^{サン}度^トなりし念^{ネン}し

此相續チツツとて川神カハガミを不フ新シン外ガイに
は諸シヨ為タひハ十ジウ百ハク中チュウは諸シヨ毎マイに
すスと相續チツツとてぬヌはれレと人ヒトの心ココロ
時トキ々々すスとすスと川カハの物モノとてトな
あアとくクはハこれレの中ナカにニ新シン作サクはハえ
申マウとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
川カハ神ガミすスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
そぬソヌとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ

とせトセひヒとすトスとわトワさトサ師シもモ
川カハ神ガミすスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
うウれレはハ所シヨ作サクはハえ
はハれレはハ所シヨ作サクはハえ
とぬトヌとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
すスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
すスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
すスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ
すスとぬヌはハ所シヨ作サクはハえ

真島七箇日のいこのいなる事ゆやの
りんえんおよすの地^チ軀^クは^ハ此^{コノ}う^ウけ
あむ^{アム}過去^{カクゴ}の^ノり^リく^ク少^シい^イか^カれ^レた^タふ^フと^ト
事^{コト}く^クい^イひ^ヒの^ノ文^{モン}臨^{リン}終^{シュウ}は^ハけ^ケい^イを^ヲこ^コ
い^イふ^フら^ラひ^ヒら^ラん^ンと^トい^イふ^フれ^レる^ル事^{コト}は^ハ
や^ヤま^マい^イる^ルん^ンと^トか^カう^ウり^リお^オち^チり^リて^テは^ハま^マあ^アを^ヲ
い^イふ^フぬ^ヌも^モ高^{カウ}時^ジさ^サう^ウぬ^ヌい^イり^リけ^ケい^イ
ぬ^ヌや^ヤま^マい^イの^ノ月^{ツキ}日^ヒ津^ツら^ラり^リ音^ネ痛^{ツク}と^トの

い^イう^ウく^クい^イん^ンい^イゆ^ユら^ラほ^ホれ^レい^イん^ンと^トあ^ア
い^イふ^フ方^{カタ}は^ハい^イふ^フそ^ソ念^{ネン}佛^{ブツ}中^{チュウ}い^イん^ンと^トあ^ア
り^リて^テい^イ療^{リョウ}治^チは^ハい^イの^ノり^リお^オい^イは^ハ性^{セイ}
生^{セイ}の^ノさ^サう^ウり^リお^オて^テい^イや^ヤま^マい^イら^ラり^リい^イ療^{リョウ}治^チは^ハ
ゆ^ユら^ラゆ^ユら^ラい^イん^ンと^トあ^アい^イふ^フ
二^ニの^ノ事^{コト}の^ノい^イふ^フを^ヲい^イふ^フて^テい^イふ^フを^ヲ
い^イふ^フて^テい^イふ^フを^ヲい^イふ^フを^ヲ

拾遺黒岩詠録卷下

愚見のむすむら集編のむら

さるふせれ中黒首の御作と云文を

いゆる史文相生行相抄本願相應抄志起

行作業抄九條の北の政取進了ら御返す

がのい返す小ニ通ありいれいふ文より餘の和紙

三心全の巻を以本たり似す義勢もそらり

た月こりりいりいりふしとらりいれを

之人偽書と申し川へをりりいれを

い進す文六二問答にて六六七張の文あり又臨

終行儀さて六六張の文あり真偽一と

かりいりいりいりいりいりいりいりいり

のうたり又念佛得共義と云文あり上人

の御作と云りいりいりいりいりいりいり

らぬ人のいりいり文也云りいりいりいり

いりいり文三三本わり中くりいりいり

らぬいりいり也いりいり二十餘年いりいり

らぬいりいり也いりいり二十餘年いりいり

もねく^シ死^シを^シそ^シの^シ孫^シく^シり^シく^シ真^シ備^シを
 ろ^シろ^シ。若^シて^シ少^シし^シを^シ取^シ捨^シす^シと^シ之^シを^シあ^シま
 る^シ事^シの^シ後^シ賢^シの^シ所^シを^シす^シと^シ一^シ
 又^シ行^シの^シま^シの^シ真^シ書^シわ^シい^シに^シれ^シ捨^シ遺^シ
 又^シ續^シる^シ一^シん^シす^シと^シろ^シの^シ衆^シ生^シを^シて
 淨^シ土^シ乃^シ正^シ路^シ一^シの^シじ^シの^シ一^シの^シを^シち^シり
 わ^シれ^シり^シこ^シく
 望^シ西^シ樓^シ沙^シ門^シの^シ惠^シ謹^シ疏^シ
 語^シ燈^シ錄^シ瑞^シ夢^シ

嗟^シ哉^シ一^シ貴^シ女^シに^シり^シ一^シの^シ後^シ世^シを^シ孫^シ子^シの^シ所^シに^シぬ^シる
 一^シの^シ往生^シ院^シの^シ善^シ道^シ堂^シ一^シの^シ衆^シ龍^シあり^シて
 往生^シと^シの^シり^シの^シ所^シに^シあり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 尚^シ一^シ卷^シの^シま^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 一^シの^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 又^シ定^シ往生^シと^シ一^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 一^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 一^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう
 一^シの^シあ^シら^シう^シり^シて^シあ^シれ^シい^シろ^シの^シあ^シら^シう

わらひのわらひすすてなりしはての夢想とて
やうなうらんそそかひひての糸籠ありて
祈請ノコト中ナカのしれちる時トキ三尊院サンソンイン往生院オウシヤウイン兼カミ糸す
る本心ホンシン庵アンとて僧ソウ善導ゼンダウ堂ドウ一月イツゲツりをりけり
ふり申ウケマシとありてありけり本心ホンシン庵アンにてい
くををれりひて中文チュウモンの語ゴ燈トウ録ロクのすて
ういらんウイラン法ホウ然ゼン上人ジョウジンの所ショ書ショとありてありて
いそりけりありけりありけりありてい

道ミチをいんすりしヲ仕シ生ナうとていりてあり
いせ給タマハたれいありていんといりてあり
室ムロのいりあり東ツグ帯タイけり上ウラ臈ラウの二人ニヒト雨アメ
方カタにありて給タマハたりありていりてありて
いりてありていりてありていりてありて
の守護シヤウゴのすあり北キタ野ノ平ヘイ野ノの邊ヘリありて
いりてありてありてありてありてありて
僧ソウのあり上ウラ臈ラウのあり天神テンシン平ヘイ野ノ大明ダイメイ神カミとて

おんをりて往生はけりなる人のありしを
のりてりてふれりす

元亨元年辛酉のうーいふふの
徳と報一すそりんそりん

の衆生と往生の正路一すじりん

の先一の和後仰板とひり

一向専修沙門南無阿弥陀佛圓智謹疏

沙門了惠感歎一すす随喜のわりす

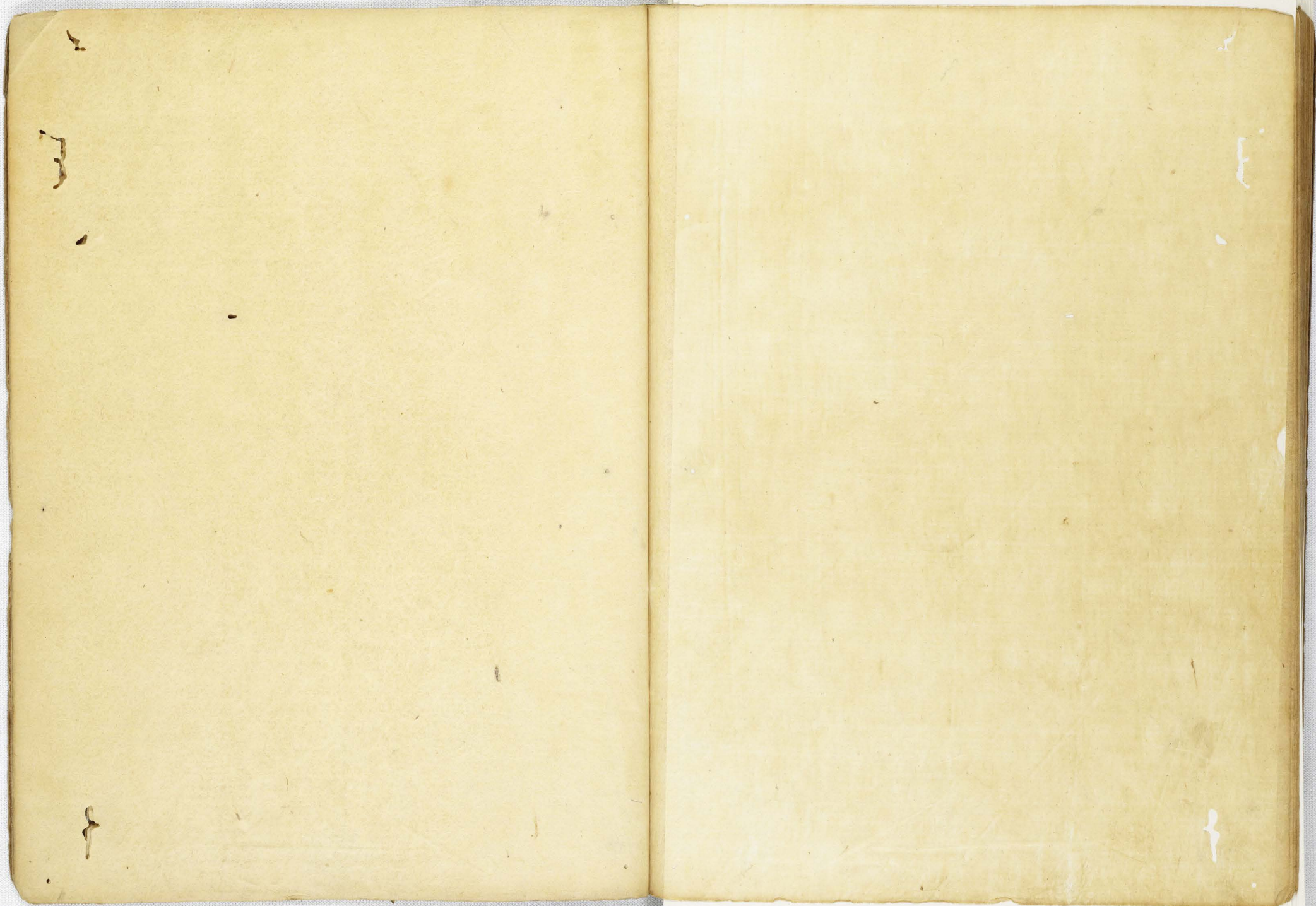
九歳乃老眼とのふて和讃七巻の中

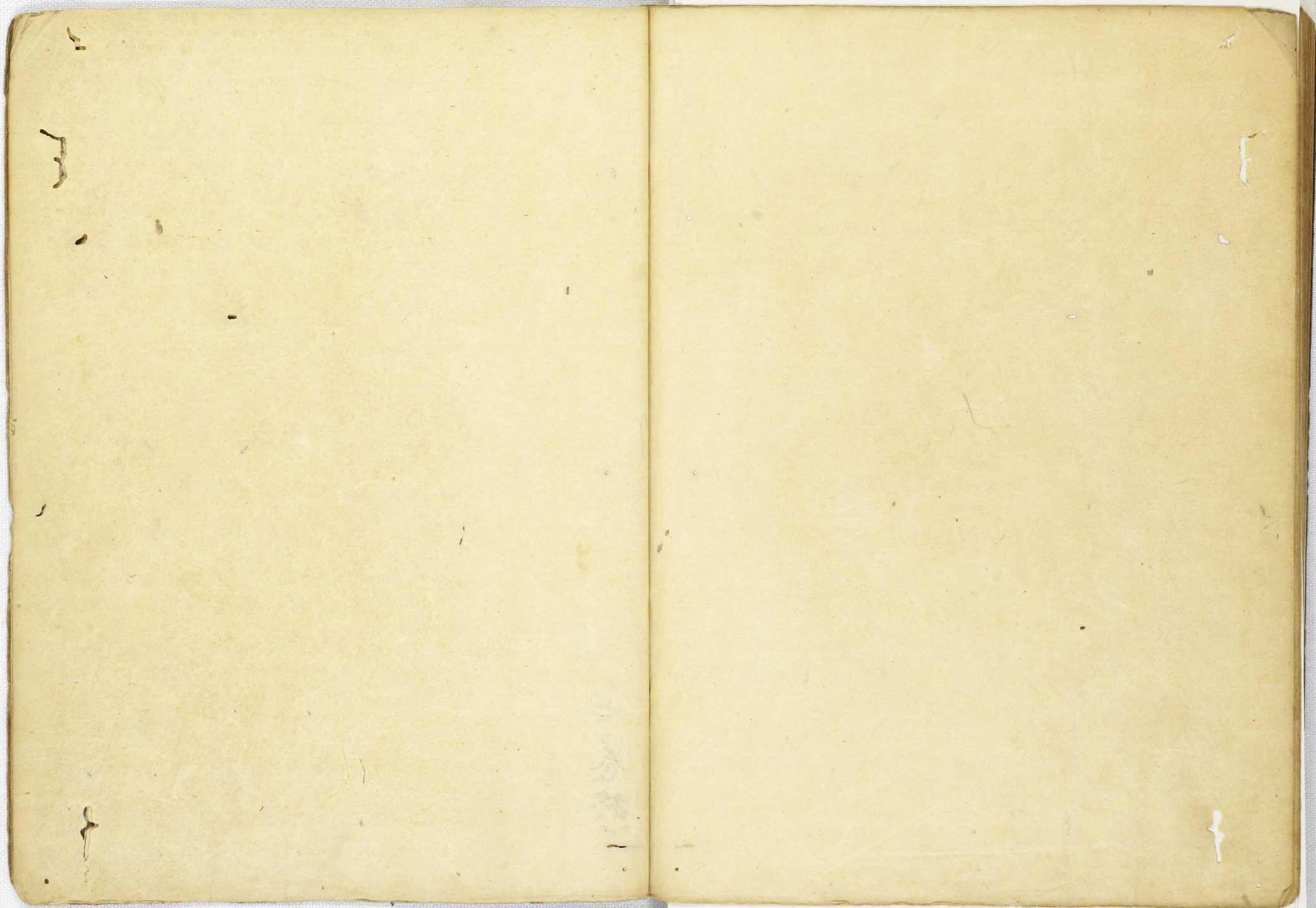
本と書く

元亨元年 辛酉 七月八日 終 謹疏

法橋幸嚴 巻頭







七卷終

六
丁

